

合同

No. 487

「歳を重ねていくとは」



日本キリスト合同教会教師

工藤 利雄

「わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです」(コリントの信徒への手紙二 3章18節)。

人は毎年誕生日を迎える度に、否応なしに一歳年をとり、歳を重ねていくことを実感させられます。特に高齢になればなるほど、年をとるスピードが速く感じるようになります。この心理的な現象を科学的に説明したのが心理学者のポール・ジャネーです。このジャネーの法則によれば、「時間の心理的長さは、年齢に反比例する」というのです。わたしは現在77歳ですから、20歳の人と比べて約4倍も時間の経過を早く感じるようになるというのです。確かに77歳にもなれば、一年が過ぎ去るのが去年よりも今年の方がより早く感じます。人生はあっという間に、かけ足で去っていくものです。年をとるということが、この短い人生においてどういう意味があるのだろうかと考えさせられます。

年をとるといって、つい高齢者を思い浮かべてしまいます。聖書には、若者に限らず多くの高齢者が登場します。アブラハムとその妻サラが、約束の子イサクを授かったのは100歳と90歳の老人になってからです。モーセはイスラエルの民をエジプトから解放し、120歳まで生きましたが、自身は約束の地に入ることができませんでした。ダビデは40年間イスラエルを治め、70歳で亡くなりました。女預言者アンナは84歳のときにイエスさまの誕生を見届けて、イエスさまが救い主であることを告げ知らせました。これら的高齢者は単に年を重ねたというだけではありません。信仰の年輪を刻み、信仰の経験を深めていった、信仰に成熟した人たちなのです。

では、彼ら高齢者はどのようにして信仰が成熟し

ていったのでしょうか。信仰の成熟とは信仰の成長とすることもできます。パウロは、キリスト者は頭なるキリストに向かって成長していくべきであると教えています(エフェソの信徒への手紙4章15節)。信仰の成熟とは、キリスト者が信仰の頂きを目指し、生涯を通して信仰を成長させていくことです。年をとることは、この信仰の成熟に向かって歩んで行くことでもあるのです。

そのような信仰の歩みは、一足飛びにできるものではなく、時間をかけながら実現していくものです。なぜなら、イエスさまご自身が、この地上において年を加えながら従順の道を歩まれてきたからです(ヘブライ人への手紙5章8節)。イエスさまは年齢を加えながら多くの苦しみによって従順を学ばれました。それも十字架に至るまで時間をかけながら従順を学び通されました。従順は信仰の根幹をなします。わたしたちは、イエスさまの従順の道の歩み方に倣って、信仰を成長させていきます。

このようにイエスさまに倣うわたしたちの年の取り方について、パウロは語っています(コリントの信徒への手紙二3章18節)。キリスト者が歳を重ねていくということは、わたしたちキリスト者が主と同じ姿に造りかえられていくことなのです。それは、時間をかけて、信仰を成長させながら、イエス・キリストと同じ姿に造りかえられていくことなのです。まさに、これが年を重ねていくことの意味なのです。そのことが、わたしたち一人ひとりに神から与えられている、生涯を通して取り組むべき務めなのです。信仰は、短期間で完成するものではありません。時間をかけて、イエスさまと共に歩み、イエスさまから学び、そしてイエスさまに支えられて取り組んでいくべきことなのです。

繰り返しますが、歳を重ねることの意味は、キリスト者が、一足飛びにではなく、一步一步前進しながら時間をかけて、イエス・キリストと同じ姿に変えられていくことをいうのです。その実現のためには、わたしたちはイエス・キリストという頂点を目指して、絶えず信仰を成長し続けることが肝要です。

そのような訳で、わたしたちは主に召されるそのときまで、今日も明日も明後日も、日々、頂点なるイエス・キリストを目標に、主と同じ姿に造りかえられながら生き続けられるようにと願うのです。